

まちづくり基本条例推進委員会 会議録

審議会等の 名 称	平成26年度 第3回 瑞穂市まちづくり基本条例推進委員会 会議
開 催 日 時	平成26年12月10日（水曜日） 午後6時00分 から 午後8時00分
開 催 場 所	瑞穂市役所 3階 大会議室
議 題	まちづくり推進プランについて
出 席 委 員 欠 席 委 員	<出席委員> 会長 中村 良、副会長 廣瀬 英昭、奥田 利恵、関谷 充、棚橋 眞二、 豊田 英二、長屋 正治、西 祐子、日高 清、馬淵 浩史、若山 将史 <欠席委員> 板谷 雄二、加藤 悟、長尾 マツ子、福元 聡美
公開の可否 (非公開理 由)	可
傍 聴 人 数	0人
審議の概要	開 会 【事務局】 定刻となりましたので、只今から第3回瑞穂市まちづくり基本条例推進委員会を始めさせていただきます。 （委員11名の出席を確認し、会議が成立している旨を宣言した。） あいさつ 【企画部長】 12月に入って随分と寒くなりました。推進委員の皆様には日頃から大変お世話になり感謝しております。本日は、前回の会議で会長さんからご提案のあった内容についてご審議頂くことになると思いますが、国からは「地方創生」ということで、「まち、ひと、しごと」に関する取り組みとして、来年には「地方版総合戦略」を策定しなければならないこととなります。そのような観点からも本日皆様のご意見を十分聞かせて頂き、計画に活用していきたいのでどうぞよろしくお願いします。 【審議案件】（1）まちづくり推進プランについて 【会長】 それでは早速審議に入りたいと思います。 事務局から説明をお願いします。

【事務局】

（事務局から諮問内容の確認及び会長から提案された内容について説明を行った。）

【会長】

ありがとうございました。本日2回目の会議になりますが、こういった場に慣れていない委員もみえるかと思います。ある意味で答えは条例の中はかなり書いてあるかと思いますが、前回めざすイメージについて皆さんのご意見をお伺いするので考えて来てくださいをお願いをしました。皆さんが軽くこう考えているという程度で結構ですのでお話を頂いて、今思いつかないけれど、ある方意見を伺って触発されてこういうことを思いつきましたという方もいらっしゃるかと思います。皆さんが思い描く社会像のようなことを話し合ってもらいたいと思います。

【J委員】

まちづくりと言うとテーマが大きすぎて、我々でどの程度考えられるのかということもありますが、市民参画ということで、瑞穂市は順調に人口が増えており県下でも有数の前途あるまちだと思っています。元々住んでいる人と新しく入ってきた住民につながりを持てていけば良いのですが、それがないままどんどん人口が増えていくと、まちの意思形成がだんだん難しくなってきます。

瑞穂市は選挙の投票率が悪く、県下でも下位のほうです。昔の町議会議員選挙では、投票率は90%以上だったのですが、今は50%程度です。そういった政治に対する意識や行政に対する意識がものすごく希薄になっています。

中心市街地から1km圏程度の所は区画整理をやって、ここは居住区ですよ、商業地ですよといった形である程度の都市形成をしてれば今の形にはなっていなかったと思うのですが、それがなかったので田んぼを売った人の土地の分だけ住宅が増えたようなことになっています。

地域、例えば校区などにまちづくりの観点からまちづくり委員会などの地域の中の意識が高い人達が集まって、将来その地域をどのようにしていって良いのかを考える仕組みができてくると良いと思います。認識の高い方はみえるかと思いますがそういった方達が何か言いたくても言えないのが現状だと思います。地域事情を知ってみえる方で話し合えば、良い案も出てくのではないかと思います。行政も何か言ってきたらやる、言ってくなかつたらやらないという体制にも見えるわけで、地域の専門家がいれば良いですが、先程企画部長からお話のあった「まち、ひと、しごと」総合戦略のように、知恵やアイデアを地域から発信するということができれば良いですが、なかなかそういったことが考えつかないという問題もあります。

【B委員】

結局のところお金の話で、配分できるお金があればどんどん配れるのですがそういう状況ではないわけです。何かルールを作って配分しないといけないのですが、その調整をどうやってやるかということになります。これまで市がアンケートなどから市民の声を吸い上げて、主導的に進めてきて、みんなの声を聞いて結果的には最大多数の最大幸福的なことになり、配分についてもまあまあということになっているんだと思いますが、実際世の中が変遷していることは私も実感しています。私は地域の見守りをやらなければいけない

のですが、実際隣の人が何をやっているのかも知らないわけで、地域で知恵や意見を出し合っているということですが、人に迷惑をかけなければ何をしてもいいという考え方の人もみえます。自分や自分達に利害関係があることだけ一生懸命やられて、実際メリットもあることもあったのですが、今はそうでないことが多くなりそれほど関心もないということです。これから孤独死などの問題も出てくると思いますが、一番気になることは個人情報保護のことで、地域で個人のことを民生委員が聞かれても答えられないこともあります。聞く方に悪意がないことは分かるのですが、個人情報だから、守秘義務があるからお答えできませんという場合もあります。そういった地域の見守りをしている立場の者が地域のつながりに協力できないという現状もあり、まちづくり基本条例では「情報の共有」や「情報の公開」と、こういった実情と相反することをが書いてあり情報を共有するとありながら、一方で個人情報保護条例で個人情報は公開しないということになっていますので、規則をつくって規則を守ろうとすると、それが変にネックになって地域社会のつながりの妨げにもなると思っています。そういったことの扱いについても啓蒙しなければならないと思います。

【会長】

本日2回目ということで、会議で発言するのが始めての方がほとんどですので、自分のイメージでまちづくりについて、まちづくりへの関わり方について感じたことをお話し頂きたいという趣旨で、フリートーク的に発言して頂いております。

【H委員】

私としては、まちづくりに関わる機会をより多く創出することが求められていると思います。これまで税金をたくさん納めて、行政にまかせておけば上手く回った時代だったと思いますが、今は税收も人も減り、国などから降りてくる仕事が増えるなかで市が抱えている事業もたくさんあり過ぎるのですが、それを市民が少し協力してあげれば十分回るのではないかと考えていまして、そういったことに市民が参画していくことが必要です。まだそういった機会は与えられていないのでさまざまな形で市民が参画する機会を充実させ、それぞれの人の事情に応じた参画機会を提供していくことが必要だと考えます。その具体的な例として、まずこの基本条例を知ってもらわないといけないので、小中学校で来年度から土曜授業が始まると聞いており、市民が教壇に立って子どもたちに教えることもできると思います。そういった機会にこの推進委員会のメンバーが小学校などに行ってまちづくりについて子どもに教えるなどして、普段の先生でない市民が先生としてお話することで、子ども達も聞いてくれるでしょうし将来このまちづくり基本条例に沿ったまちづくりを進めていくのは実際その子ども達になりますので、そういったことをやってみてはどうかと思います。もう一つは、市民アンケートの結果を見ましたが、アンケートもなかなか忙しいと答えられない方も多いと思います。子どもさんがいる方など、お昼のランチを食べているときそういったところに出かけて行ってお話を聞くなど、これまであまり声が聞けなかった層の方々の話を聞く努力も必要だと思います。そういった様々な方法を模索しながら、市民の意見を聞くことができる機会の創出を求めていきたいと思っています。

【A委員】

先程B委員が言われた民生委員のお話では、情報提供の問題で大変困ってみえると思います。今一番問題になっているのは認知症の方の問題なのですが、そういった方々に対しどこまで踏み込んでお話できるか悩んでみえることは確かだと思います。まちづくりにどのように参画していくか考えたとき、私達の年代は正直忙しく仕事をして主婦をして忙しい中で参画するきっかけとしてワールドカフェは良い方法だと思います。話し合いの場に来て下さいということも大事だと思いますが、本当に皆さんの声を聞きたいのならこちらから出かけて行かないとなかなか難しいかと思います。もう一つは、今はインターネットの時代ですので、それを利用して気軽にメールするような感じで時間がある時に意見を出すことができれば良いと思います。無作為に何人か選んで来て下さいと言っても難しいと思いますので、来る来ないは別として主婦の方など時間があるときに意見を出せるような参加の仕方も時代に合っているのではないかと思います。

【C委員】

体育館で活動したい団体は体育館を作りたい、屋外で活動する団体は広い場所があればサッカーや陸上ができるということで、なかなか意見がまとまらないのが実情です。それぞれの団体の要望も違うので一つの意見にまとめることはとても難しいのです。相撲の団体はもう10年も待っているのに練習場ができないと言っていますいろいろなことを聞いています。スポーツ施設はいろいろありますが大きな大会を誘致できような場所はないわけですし、中途半端な小さい地域で使う程度の施設しかないのが実情です。生津スポーツ広場で野球場を作ってもらったんですが、大きな大会をやるときファールグラウンドが狭いので規格に合わないと言われました。

もう一つ思っていることは、保育園や防災センターは生津校区に一つもないのですが今から作ろうとしてももう遅いと思っています。その時に合った施設はその時しか作れないということもあると思います。馬場東には公民館がなく、資料館を使って会議をやってみえます。防災センターのようなコミュニティ施設があればと思うのですが、なかなか思うようにいかないのが現状です。少子化問題で初めて孫を持って思ったのですが、昔の家長制度は良い時代だったということです。家長制度は老人が最後に一人になってしまうということはないです。ですので家長制度は決して悪い制度ではないと思います。核家族化が進み、子どもが外へ出ていってしまいます。私は定年で今家にいますが、将来孫がある程度大きくなったら子守りができるといいなと思っています。そういったことも含めて将来のまちづくりを考える必要があると思います。

【G委員】

個々の問題に関わっていくのがこの推進委員会の使命なのか、市民ニーズが多様化していくなかどのようにそれに対応していくかを考えることなのか、その辺りが私自身でまだよく分かっていません。

【会長】

副会長からの地域の将来はその地域で考えるというお話しで、その主体として自治会を活用することなどのご提案がありました。地域の将来像について市民の方で考えて下さいということで、それが参画になるのですがそれをどう

やって行政に伝えて活用していくかということになります。個別の問題ですがそういった意思決定に市民がどうやって関わっていくかという問題で、パブリックコメントをとったけれど、数件しか集まらなかったのもそれは少ないということになって、積極的に聞きに行けば声が聞けたのではないかということになりますので、政策に対してここで議論するわけではなく十分に市民の意見を聞きながら進められたかという問題として、子どもさんがみえる方が話し合いの場に来られない、そういった方の意見は聞かないと切ってしまうスタンスなのか、最終的に決めるのは行政ですがいろいろな意見を出して決めるというやり方の問題だと思います。本日はテーマを拾い出すために自由に意見を頂きたいということなのでここで結論を出すことはありません。

【G委員】

そういった考え方をしっかり持たなければいけないと思うのですが。

【会長】

できること、できないことはしっかりとお話していきたいと思います。

【B委員】

ものを言わない人、「サイレントマジョリティ」が多数だと思いますので、こういった会議の場で発言する方の意見が、ある意味少数派の場合もあり、それぞれの人の本音を引き出すことが一番難しい問題だと思います。何かやったとき反対意見が噴出するということでは、それを上手く引き出せていないということになってしまいます。

【H委員】

ワールドカフェではこういった意見交換もできますし、自分の意見が言えれば、ある意味すっきりすることもあると思います。会場全体の多数派意見も話をするなかで分かると思います。そういった機会は保障されるべきだと思います。この会議は公式な場ですし人数も少数ですので、ポイントを絞って参画方法や条例推進について意見交換を行っていくべきだと思います。

【会長】

個人的には「誰でも参画協働できる社会」を理想として掲げたいのですが、現実には家で親の介護をしてみえる方は参画できないですし、小さな子どもさんがみえる方も難しいこともあり、そこに知恵を出そうということで本当に必要な意見であればそれにお金がかかっても仕方がないですし、行政にも汗をかいてもらい市民もボランティアで参加するなど、そういった工夫を出していくことが必要だと思います。具体的な事例として、特に誰の意見を聞かなければいけないのかということで、全ての事案に関して誰にでも話しを聞かなければいけないことはないでしょうし、それはやはり整理してその時のツールとして「市民会議」や「ワールドカフェ」、「パブリックコメント」などがあり、利害関係がない方々にもモニタリングしてインタビューするなど、こちらから聞いて回ることや、いろんなやり方があると思います。現状はそうっていないので先程B委員が言われた「サイレントマジョリティ」ではありませんが、どのように市民の意見を掘り起こすかであり、掘り起こした意見をどのように活かすかは、私達の問題ではなくそれを使う側の問題になってきます。ですので、

縁の下の力持ちといった感じで、必要な情報を必要な方々から伺ってその意見をどう吸い上げるかが一番のポイントだと考えています。

【D委員】

前委員会でもこのような議論があり、個別の問題は議論しないことについて意識統一できるまでには少し時間がかかったのですが、その積み重ねで今回もスタートできると良いと思います。メンバーが変われば同じようにいかないことは理解できます。ですが、やはり個別の問題に関する議論は避けるべきだと思います。ではそういった個別の問題をどうすれば良いのかということですが、市民がそれぞれ市民活動をすればいいのだと思います。個々の市民活動の中で積み上げたものを反映させる形も必要ではないかと考えています。そういった市民活動も市民参画・協働であり、市民活動を活かすための仕組みを作ることこの委員会の役割と思っています。

前委員会での2年間は、そういったまちづくりを進めていく気持ちを持てた委員が集まったので、できればここに集まった人を軸として更に市民の和を広げていけるように手を広げ、その中でまちづくりを動かして行ける中心的役割になればと考えています。まちづくり基本条例がまだ十分理解されていないことは、個々の問題が従来型の進め方で動いているということであり、そういったことを変えていくきっかけにしたいと思います。前委員会では本会議と別に部会（勉強会）を実施しフリートークで勉強や話し合いを行ってきました。そういったものを発展させてその活動が具体的な実働部隊として動き将来的に行政のお手伝いができるような仕組みを作っていければ、審議会組織の枠に捕らわれない新しい進め方もできるのではと思っています。

【I委員】

先程から市の過去の問題についての話が多かったと思います。私は瑞穂市に来てまだ2年で詳しく知らないことが多いのですが、先程A委員が発言されたインターネットの活用については、若者の意見を聞くにはとても役立つと思います。ツイッターやフェイスブックなどのSNSは若者のほとんどがアカウントを持っているので、そういった層の意見を聞く仕組みを瑞穂市でも作って意見交換できることも有意義だと思いました。

先程からお話を伺ってきて地域の絆はとても大事だと思いますが、意見を出す人の中心が50代、60代の世代が中心になっていることが多いと思います。新しい時代の風は学生だったり、30代、40代の子育てをしている方が中心であり、これからのまちをつくる上では大事な意見だと思います。今話を聞いていて、中心となる世代が少しズレているのではないかと思いますのでもう少し若者の意見を聞いて進めることができれば次に繋がると思いました。

そういった意味でも、先程H委員が言われた小中学校の授業で例えば民生委員の活動を知らせることなど、次の世代に教えて繋げる活動も非常に良いことだと思います。

【E委員】

瑞穂市が将来どのような方向へ進むかというのが基本的な問題だと思います。瑞穂市の現状を見たとき駅はあるのですが通過点になってしまっていると思います。一つのアイディアとして駅周辺の空地を利用して一つのまちをつくる、福祉・医療・保育・介護など都市に必要な機能を駅周辺に集約することな

どです。もう一つは、瑞穂市には中山道という資源があり全国に発信できる美江寺があります。そういったものを観光にも利用できると思います。また、朝日大学さんには市のまちづくりに大変ご協力を頂いておりますが、朝日大学さんと連携してもっといろいろなことができれば良いと考えております。

【会長】

市民検討会議では、分野毎の個別施策についての検討が行われると思いますので、そういった場で今の様々なアイデアを是非発言して頂きたいと思います。この推進委員会ではそういった意見が行政側に届いているのかということを考える場であり、行政側が市民のそういった意見を本当に知っているのか知らないのかが問題になると思います。

【F 委員】

市民それぞれに要望があるのですが、それをどこに話せばいいのか分からないのが現状だと思います。今住んでいるところは朝日大学の近くなのですが、近所のアパートに学生さんが多く下宿されてみえます。大学の校内に入る前に煙草などをポイ捨てしていくので近所は大変困っているのですが、そういった基本的ルールを市が学生さんに知らしめてもらうことはできないのだろうかと思っています。

【D 委員】

そういった問題に対し地域としてまとまった動きはないのでしょうか。

【F 委員】

自治会長さんには言いに行ってきました。その都度学生に注意しても毎年新しい学生と入れ替わりますので、マナーは良くなりません。

【H 委員】

地域の方がその場所を清掃してきれいに保つ努力をすれば、そういったきれいに保たれているところにゴミをポイ捨てしてはいけないという意識が生まれてくるのではないのでしょうか。そういった活動を地道に続けていくしかないのかもしれないかもしれません。

【会長】

F 委員の言われた問題で大事なポイントがあると思うのですが、外から来た方が瑞穂市のゴミのルールのことを知る術はインターネットで調べれば分かりますが、地域の細かいルールは実際には分からないわけです。そういった意味で新しく入ってきた住民にとって市にはそういった細かい情報がないので、自分でそれを知る必要があって非常に困ることもあると思います。「情報の共有」と言っても、昔から住んでいる市民はいろんなことを元々知っていますが、新しく来た方はほとんど何も知らないなので、その情報格差が問題だと考えられます。皆さんが困っていることに対し、どうしたらもっと良くなるのか、そのために皆がどうやって働けるのかという問題であり、具体的には個人情報の問題で上手くいっていないことなどの個別の案件については、市民検討会議などで具体案を出して総合計画に反映させるべきで、この推進委員会では皆さんの声を吸い上げる仕組みの部分で案を出すのが大きな仕事になります。

本日一点ご提案させて頂きたいことがあるのですが、それは市民検討会議などを開催する際に子どもさんを連れて来たい方がある場合のことなのですが、託児室ではありませんが、何か知恵を出して子どもさんを連れて来ても会議に参加できるようにしてはどうかということです。勿論要望がなければ良いのですが、そういったハンディキャップがある為に会議に参加できないことがないようにしてはどうかということです。それで試験的にでも結構ですので市民参画の集まりを実施する際に、子ども連れでも参加できるような仕組みを用意する。これには知恵やお金もかかるかもしれませんが、検討して頂けないかということでまずその第一歩としてお子さん連れでも参加できるきっかけの物理的な仕組みを検討して頂けないかというご提案になります。

何故今この提案をするのかと申しますと、市民検討会議は1月から始まるとお聞きしておりますので、それに間に合わせたいと思ったからです。本日ここで決定して頂けるなら、まちづくり基本条例推進委員会からこういった提案があったということで、市の各会議にもご提案を頂けるかと思います。皆さんいかがでしょう。(拍手あり)

【J 委員】

どんなに良いことをしても、そういった情報を発信する力がないとそれが伝わらないという問題もあります。

【会長】 実際そのとおりで、市民検討会議自体を知らない方がほとんどで、これまで市で決めた計画についてを審議するような会議がほとんどだったのが、総合計画の素案を作るところに市民が参加できる会議というのはある意味画期的なものはずなのですが、それを誰も知らないんです。市の方にはもう少し上手くそういった情報を発信してもらいたいと思います。ホームページで検討委員の募集をしてもそれだけで市民の方が会議に参加してもらえとはとても思えませんし、もっとメディアやいろいろなものを活用してPRするべきだと思います。知らない人に知ってもらわなければ意味がないということもあると思いますし、そういった意味で委員の皆さんに情報発信のアイディアを出して頂きたいと思います。

【C 委員】

協会理事会でワールドカフェへの参加をお願いしたのですが、反応がないのが現状です。

【会長】

そういったところに何ってPRすることが必要だということで、こういった場所でどのようなお知らせをすれば効果的かというアイディアを出して頂きたいということです。

【J 委員】

企画財政課ではこういったまちづくりの仕事以外にも多くの仕事を抱えてみえるので、こういったことかけられる時間的余裕がないのではないかと思います。情報発信力が弱いことの背景には市の組織体制の問題もあるのではないかと思います。「まちづくり推進課」や「推進室」を作って頂き、その部署が常にそういった情報発信や情報共有を専門的にやらないと、まちづくり基本

条例も浸透していかないし、それを実行する場合にも行政側がそれだけのエネルギーを出してやらないと市民はついていけないと思います。その辺りの体制的なことについても今すぐとは言いませんが考えて頂きたいと思います。

【H委員】

情報発信の部分で、自分達でSNSなどを使って情報発信しても良いということであれば、私自身もやっていきたいと思うのですが、それをしてよいものかどうかという問題があります。行政側がどれだけ市民を信頼できるのかということ、そして市民の活躍の場をどれだけ提供できるかということが課題であり、市民も行政もお互いがウィンウィンの関係で成り立つ方法を考えて提言できればやることもあると思います。行政でできないのなら自分で動いて、上手くいったものを一緒にやるといった形の協働が進めやすいのではないかと思います。

【会長】

H委員からこの委員会として情報発信して頂けるというご意見がありましたが、検討の余地はあると思います。皆さんいかがでしょう。

【B委員】

この会議の議事録は市のホームページに載るんですよね。

【H委員】

市のホームページは意識がある方しか開かないので、SNSであれば登録者に一方的に流す情報になります。

【B委員】

そうであるなら、リンクを貼ってもらえば良いのではないのでしょうか。

【会長】

議事録は行政側でまとめて、委員の皆さんの確認をとってから載せるのでかなり時間がかかります。SNSからの情報発信としては議事録以外の情報をすぐに発信することもできるという利点もあります。

【B委員】

インターネットを何年もやってきましたがいろいろな書き込みがありますので、活用レベルを考えてやらないとネットは危険だと思います。ひどい書き込みがあったときなど、波紋が広がることもあるので一体どんな情報発信が元でそうなったかと思われるようなことが出るかと危惧します。

【H委員】

本来情報に責任を持てる行政側でやって頂ければ一番良いですが、それができない、難しいということであればお手伝いしますということで、そういった機会を与えてくださいという趣旨でお話ししていることです。

【B委員】

やはり、一番元の情報がある訳ですので、そこにリンクを貼ってもらうのが

良いと思います。

【E 委員】

町内会の回覧板を使ってお知らせする方法が効果的だと思います。広報にも記事が載っていますが、なかなかそれを見てもらうことも難しいと思います。

【会長】

回覧板が回らない自治会はどうするのかという問題もあり、SNSでの情報発信にもリスクがあることには注意する必要があるのですが、マイナス要素ばかり危惧すると何もできなくなってしまうこともあります。今のお話で回覧板での情報発信するのなら誰がその情報を作るのか、また、どこまでの情報を載せるのかという問題があり、議事録などの情報なのかワールドカフェなどの参加者募集の情報なのかにもよります。

【H 委員】

ワールドカフェもそうですが、いろいろな会議で一体どんなことを話し合っていて、市民からどんな意見が出されたのかは市民に分からないので、それを市民の方にお知らせすれば、見た方がそういった場に参加すれば自分も意見を言うことができるんだということを知ってもらえるきっかけになると思うのですが。

【会長】

ワールドカフェの結果報告について、行政側はどのように考えておられるのでしょうか。

【事務局】

ワールドカフェでは話し合いの最後に発表の場があり、参加者ごとの感想になるのですが、話し合った結果を個人の意見としてお話して頂くことになります。話し合いの中で出た様々な意見を踏まえての感想になりますので、参加者が始めに思っていたことと違った意見になってくることが狙いとしてはあります。そういった感想を参加者の声として報告書にまとめホームページに載せたいと考えています。

【会長】

単にワールドカフェというイベントが開催され、結果はこうでしたと言ってもなかなか伝わらないこともあると思いますので、この会議でもこういったことをどのように伝えればより知ってもらえるか知恵を出せればと思います。

回覧板を活用するアイデアやSNSで情報発信することも出ました、そういった情報を出したとき、それに対しての意見を言う場を作ることにしてはリスクが高いという意見がB委員からありました。

【B 委員】

そういった場を作るのは良いのですが、その後の管理をどうするのかということで、それはその場を作った人がきちんと管理していかなければいけないということです。

【会長】

ここでは、ワールドカフェなどそういったことをやっていること自体を知ってもらうことを発信したいという意味で、その手段としてSNSを活用してリンクを貼るということならよろしいのでしょうか。

【B委員】

インターネットでリンクを貼るのは当たり前ですので問題ないと思います。

【H委員】

アカウントとして「まちづくり基本条例推進委員会」の名前を使うことについては大丈夫なののでしょうか。

【事務局】

イベントなどの情報としてお知らせするようなものであれば良いのですが、市のホームページには行政情報として既にこの推進委員会のページがあり、附属機関である審議会として掲載すべき情報を既に載せております。市の諮問機関ですので、市長から委員の皆さんに対し諮問を通して審議案件の検討をお願いしているということから、そこで話された意見はいくら公的な機関だからと言ってもそれが市として決定したことではないという問題もあります。ですので、市民の意見を聞いていますという情報と、審議会での話し合いや活動に関する情報とはカテゴリーを分けて考える必要があると思われます。

市の附属機関はこの委員会の他にもたくさんありますので、そういった情報発信の手法をすべての機関にも適用するののかという問題も出てきますし、回覧板につきましても各部署や様々な団体から毎回お知らせを出しておりますので、市が出すすべての情報整理も実際には上手くコントロールできていないのが現状です。まちづくり推進の一環として、試験的にそういったことに取り組むというスタンスであれば可能ではないかと考えられます。

【会長】

総合計画策定における市民参画のあり方も諮問事項になっていますので、情報発信に問題があるのでもっと情報を発信してくださいということで提言ができればそれは可能だということでしょうか。

【B委員】

非常に危険だと思うことは、偏った意見をお持ちの方があったり、悪意で場を荒らす方もあり、裁判所などではリンクを貼ることを拒否しています。そこまでの話ではないですが、インターネットは非常に怖いところがあってしっかり管理していないとこの委員会で発信したことが面白半分で利用されることがいくらでもあり得ると考えられます。発信した情報は一旦流れればそれはもう削除できませんので、リンクを貼ることだけでもそういったリスクがあるということです。

【会長】

SNSにリスクがあることは十分理解できますが、B委員は書き込みがされることを言ってみえるので、書き込みできるかどうかについては決まっています。情報を発信することだけを言っているのので、それ自体にリスクがあるか

という問題だと思います。

【B委員】

ただ、安直にそういったことを実施するのが危険だということです。

【事務局】

現在ホームページのリニューアルを行っているのですが、その時にもSNSを活用する話が出ました。SNSは登録者が書き込みすることができる点が良いところなのですが、それに対し市側がコメントすることなど、双方向のやり取りが伴いますので、それを管理するためにはそれなりの体制が必要になってきます。他市においてもSNSは活用されていますが、やはりしっかりとした管理者がいますし、どのような内容に答えるか答えないかという問題もあり、実際にはクリアすべき課題も多く、今回のリニューアルではSNSの活用は実現しておりません。現在のホームページでは意見を書き込むことができるようにはなっていますが、そういった書き込みに対しどのように対応するかという課題は残っています。現状は書き込みの相手がはっきりしていて、お答えできる質問にはメールなどで返事をお返ししていますが、お答えできない質問や匿名で相手が誰か分からない書き込みの場合どうしようもないというのが現状です。

【会長】

SNSの件は、行政側で一度ご検討を頂き次回の会議でご回答ください。

今後についてですが、本日の議事録をご確認頂いた後まとめさせて頂き、まちづくりを担う自治体の問題や市民の皆さんの意見どう行政に反映させていくべきかという問題、また、それを実践していく組織があるのかという問題などについて整理しそれを次回ご提案させて頂く方向を考えております。

本会議は2時間と非常に短いので、なかなか詳しい内容まで踏み込んで話すことができないということで、1月中に一度勉強会を開催したいと思うのですが皆さんいかがでしょう。これは任意出席の会ですので強制ではありません。

【H委員】

本会議は時間が短いのでなかなか意見を出し尽くすことも難しいと思います。そういった意味でも勉強会でお互い意見交換しながら進めることは有意義だと思いますので賛成です。

【会長】

勉強会は任意で開催しますので報酬は出ませんし、話し合ったことは推進委員会の決定事項ではありません。あくまでも話し合いの場ということです。

できれば勉強会を開催させて頂きたいので、ご案内を送付させて頂いてもよろしいでしょうか。(特に意見なし) それでは1月に勉強会を開催するということでご案内させて頂きます。また、2月の水曜日に本会議を開催するという事でよろしくお願いします。

【H委員】

ワールドカフェの状況は報告してもらえるのでしょうか。

	【事務局】 カフェの様子につきましては何らかの形でご報告させていただきます。 【会長】 それではよろしくお願いします。本日は長時間ご審議頂きありがとうございます。ありがとうございました。 閉 会 （勉強会を平成２７年１月１４日（水）１８：００～に開催すること及び次回本会議を２月に開催することを決定し閉会した。）
事務局 (担当課)	瑞穂市 企画部 企画財政課 TEL 058-327-4128 FAX 058-327-4103 e-mail kikaku@city.mizuho.lg.jp